

本体工事が本格化

尾原ダムで定礎式

斐伊川・神戸川治水事業計画の三点セット（上流部のダム建設、中流部の放水路整備、下流部の大橋川改修と湖岸堤の整備）の一翼を担う尾原ダムで三月二十三日、ダム本体の本格工事を前に安全を祈願し、定礎石を埋め込む定礎式



▶様々な想いを胸に多くの方が出席

が行われました。

尾原ダムは、洪水調整に加え、河川環境の保全と水道用水の供給を目的に、昭和六十二年頃から実施計画調査に入り、平成三年度から建設工事に着手されました。

式典には、国交省、県、流域の住民や地元選出の国会議員など約三百人が出席し工事の安全と早期完成を祈願しました。定礎式では、雲南市立温泉小学校糸原一輝さんの「命育むオロチの泉」、奥出雲町立仁多中学校一年の田中壽樹さんの「水の恵みすべての人へ」と文言が刻まれた礎石（高さ四十一センチ、長さ九十三センチ）がダムの基礎部分にコンクリートで埋め込まれました。

岩田町長からは、奥出雲町



▲ダムの永久堅固を願い関係者が定礎石を鎮定

と雲南市で合わせて百十一戸の家屋移転された流域住民の方々の深いご理解があったからこそ感謝の言葉があったか上で「山陰最大のダム湖として、奥出雲町の豊富な地域資源となり、上流域の発展に繋がるよう期待します」と挨拶がありました。

本体工事は、平成十八年六月から着手され、現在の進捗率は十三・八パーセント。平成二十二年度の完成を目指して現在工事が鋭意進められています。

生の医療現場を体験

横田高校生が奥出雲病院で医療見学・体験会

三月二十七日、町立奥出雲病院が、地元横田高校の生徒二十七人を招いて、看護実習などの体験会を開催しました。

初めて抱いて緊張しました。命の重さ、大切さを改めて感じました」などの感想がありました。午後からは、普段接する機

同病院では、将来の人材確保や地域に開かれた病院づくりを目指したため、医療関係の進路を希望する生徒を対象に、四年前から春休みや夏休みを利用して「医療見学・体験会」を開いています。

午前中は、看護師、介護福祉士を希望する生徒が、病院のユニフォームに着替え、看護師から指導を受けながら、高齢患者の介助や検温、車椅子体験をしました。

また、三階病棟では生後三日の新生児を自ら抱いたり、助産師がもく浴する様子を見学したりするなど貴重な体験をし、生徒からは「新生児を



▲真剣な表情で医療スタッフの説明を聞く高校生

会の少ない薬剤師、栄養士、理学・作業療法士、歯科衛生士などの職種を希望する生徒が、医療スタッフから説明を受け、医療現場への理解を深めていました。